

# 調査結果の概要

## 1 県民の幸福感に関する意識について

### (1) 県民の幸福感

#### 幸福感の平均点は、10点満点中「6.7点」

県民の幸福感について、「7点」と答えた人の割合が22.4%と最も高く、続いて「8点」(21.8%)、「6点」(14.2%)、「5点」(14.0%)の順になっており、平均すると「6.7点」となっている。

### (2) 幸福感を判断する事項

#### 「健康状況」が60.2%

幸福感を判断する事項について、「健康状況」と答えた人の割合が60.2%と最も高く、続いて「家族関係」(55.5%)、「家計の状況(所得・消費)」(54.4%)の順となっている。

## 2 愛知の将来方向について

### (1) 望ましいと思う愛知県の姿

#### 「必要な時に医療や介護を受けることが出来る地域」が65.3%

望ましいと思う愛知県の姿について、「必要な時に医療や介護を受けることが出来る地域」と答えた人の割合が65.3%と最も高く、続いて「大規模地震や風水害への対策が進んだ安全な地域」(52.2%)、「自動車などのモノづくり産業の世界的な中心となる地域」(28.1%)の順となっている。

### (2) 望ましいと思う居住地域の姿

#### 「必要な時に医療や介護を受けることが出来る地域」が54.3%

望ましいと思う居住地域の姿について、「必要な時に医療や介護を受けることができる地域」と答えた人の割合が54.3%と最も高く、続いて「防犯や交通安全の取組が行われていて、安心・安全な地域」(37.9%)、「バスなど地域の公共交通で便利に移動できる地域」(36.7%)の順となっている。

### (3) リニア中央新幹線の愛知県への効果に対する期待

#### 「愛知県からの旅行やビジネスの範囲が広がる」が35.9%

リニア中央新幹線の愛知県への効果に対する期待について、「愛知県からの旅行やビジネスの範囲が広がる」と答えた人の割合が35.9%と最も高く、続いて「人の交流が活発になり、新しいビジネス・産業が生まれる」(29.6%)、「首都圏や関西圏への移動が便利になり、立地する企業が増加する」(17.7%)の順となっている。

#### (4) 望ましい職場

##### 「安定した雇用が保たれる職場」が 59.8%

望ましい職場について、「安定した雇用が保たれる職場」と答えた人の割合が 59.8%と最も高く、続いて「自分や家族のための時間を持つことができる職場」(54.9%)、「会社の中で、知識やスキル(技術・技能)を身につけられる職場」(20.4%)の順となっている。

#### (5) 少子高齢化・人口減少社会対策において心配なこと

##### 「医療・介護施設が不足し、必要な治療・支援を受けにくくなる」が 60.0%

少子高齢化・人口減少社会対策において心配なことについて、「医療・介護施設が不足し、必要な治療・支援を受けにくくなる」と答えた人の割合が 60.0%と最も高く、続いて「自治体の財政が悪化し、道路、水道などのインフラが維持できなくなる」(29.9%)、「空き家が増え、犯罪や火災が起りやすくなる」(25.2%)の順となっている。

#### (6) 少子高齢化・人口減少社会における働き手不足に対する解決方法

##### 「元気な高齢者が、定年後も働きやすく、今以上に活躍している社会」が 56.9%

少子高齢化・人口減少社会における働き手不足に対する解決方法について、「元気な高齢者が、定年後も働きやすく、今以上に活躍している社会」と答えた人の割合が 56.9%と最も高く、続いて「女性が、出産・育児後も働きやすく、今以上に活躍している社会」(53.4%)、「様々な事情で働くことができない人が、労働参加できるようになる社会」(31.9%)の順となっている。

#### (7) 元気な高齢者の好ましい過ごし方

##### 「時間や曜日を限定して働く」が 60.5%

元気な高齢者の好ましい過ごし方について、「時間や曜日を限定して働く」と答えた人の割合が 60.5%と最も高く、続いて「旅行などの趣味や健康のためのスポーツなどをして、ゆったりと過ごす」(59.1%)、「清掃や防犯・防災など、地域を支える活動をする」(34.4%)の順となっている。

### 3 動物愛護管理について

#### (1) ペットの好き嫌い

##### “好き”が 75.9%

ペットの好き嫌いについて、「好き」(46.3%)と「どちらかといえば好き」(29.6%)を合わせた“好き”と答えた人の割合が 75.9%となっている。

一方で、「どちらかといえば嫌い」(12.2%)と「嫌い」(6.2%)を合わせた“嫌い”と答えた人の割合は 18.4%となっている。

#### (2) ペットの飼育状況

##### 「飼っていない」が 73.4%

ペットの飼育状況について、「飼っていない」と答えた人の割合が 73.4%と最も高く、続いて「犬を飼っている」(13.5%)、「猫を飼っている」(10.6%)の順となっている。

### (3) ペットの入手方法

**「ペットショップやブリーダーから購入した」が53.0%**

ペットの入手方法について、「ペットショップやブリーダーから購入した」と答えた人の割合が53.0%と最も高く、続いて「知人から譲り受けた」(25.8%)、「拾った」(18.9%)の順となっている。

### (4) ペットの災害対策

**「ペットの脱走防止」が31.0%**

ペットの災害対策について、「ペットの脱走防止」と答えた人の割合が31.0%と最も高く、続いて「ペットといっしょに避難するためのペット用品の確保」(24.5%)、「名札等による所有者明示」(18.3%)の順となっている。

一方で、「何もしていない」と答えた人の割合は40.6%となっている。

### (5) 飼い犬の所有者明示方法

**「狂犬病予防注射済票」が58.3%**

飼い犬の所有者明示方法について、「狂犬病予防注射済票」と答えた人の割合が58.3%と最も高く、続いて「首輪」(34.8%)、「マイクロチップ」(30.9%)の順となっている。

### (6) 飼い猫の所有者明示方法

**「首輪」が36.3%**

飼い猫の所有者明示方法について、「首輪」と答えた人の割合が36.3%と最も高く、続いて「名札」(8.1%)、「マイクロチップ」(8.1%)の順となっている。

一方で、「明示していない」と答えた人の割合は、50.6%となっている。

### (7) 飼い犬・猫の不妊去勢手術実施の有無

**「すべての犬又は猫に手術をしている」が71.9%**

飼い犬・猫の不妊去勢手術実施の有無について、「すべての犬又は猫に手術をしている」と答えた人の割合が71.9%と最も高く、続いて「手術をしていない」(18.8%)、「一部の犬又は猫に手術をしていない」(4.3%)の順となっている。

## 4 防災（地震）に関する意識について

### (1) 南海トラフ地震への関心

**“関心がある”が93.1%**

南海トラフ地震への関心について、「非常に関心がある」(55.5%)と「少し関心がある」(37.5%)を合わせた“関心がある”と答えた人の割合が93.1%となっている。

一方で、「あまり関心がない」(4.9%)と「全く関心がない」(0.9%)を合わせた“関心がない”と答えた人の割合は5.9%となっている。

## (2) 住宅の耐震化

### “耐震化を行っている”が58.6%

住宅の耐震化について、「1981（昭和56）年6月1日以降に着工された住宅（新耐震基準）であり、耐震化は済んでいる」（53.8%）と「1981（昭和56）年5月31日以前に着工された住宅（旧耐震基準）のため、耐震改修を行っている」（4.7%）を合わせた“耐震化を行っている”と答えた人の割合が58.6%となっている。

一方で、「1981（昭和56）年5月31日以前に着工された住宅（旧耐震基準）だが、耐震改修を行っていない」と答えた人の割合は14.6%となっている。

## (3) 地震や津波に対する損害保険への加入

### 「加入している」が57.0%

地震や津波に対する損害保険への加入について、「加入している」と答えた人の割合が57.0%となっている。

一方で、「加入していない」と答えた人の割合は28.8%となっている。

## (4) 家具・家電の固定

### 「一部しか固定していない」が45.6%

家具・家電の固定について、「一部しか固定していない」と答えた人の割合が45.6%と最も高く、続いて「固定していない」（37.8%）、「大部分固定している」（16.1%）の順となっている。

## (5) 家具・家電を固定していない理由

### 「手間がかかる（面倒だ）から」が42.1%

家具・家電を固定していない理由について、「手間がかかる（面倒だ）から」と答えた人の割合が42.1%と最も高く、続いて「自分ではできないから」（23.3%）、「費用がかかるから」（21.5%）の順となっている。

## (6) 感震ブレーカーの設置

### “設置していない”が46.1%

感震ブレーカーの設置について、「設置している」と答えた人の割合が16.5%となっている。

一方で、「感震ブレーカーの存在は知っているが、設置していない」（16.4%）と「感震ブレーカーの存在を知らないなので、設置していない」（29.7%）を合わせた“設置していない”と答えた人の割合は46.1%となっている。

## (7) 食料の備蓄

### 「3日分」が30.5%

食料の備蓄について、「3日分」と答えた人の割合が30.5%と最も高く、続いて「2日分」（19.3%）、「1日分」（11.1%）の順になっている。

一方で、「用意していない」と答えた人の割合は、23.5%となっている。

**(8) 飲料水の備蓄**

**「3日分」が22.8%**

飲料水の備蓄について、「3日分」と答えた人の割合が22.8%と最も高く、続いて「2日分」(19.4%)、「1日分」(17.9%)の順になっている。

一方で、「用意していない」と答えた人の割合は、23.3%となっている。

**(9) 日頃の地震対策**

**「非常持ち出し袋（携帯ラジオ・懐中電灯・医薬品など）を準備している」が46.5%**

日頃の地震対策について、「非常持ち出し袋（携帯ラジオ・懐中電灯・医薬品など）を準備している」と答えた人の割合が46.5%と最も高く、続いて「家族が離ればなれになったときの落ち合う場所を決めている」(27.4%)、「簡易トイレを用意している」(17.9%)、「家族との連絡方法などを決めている」(17.9%)の順となっている。

一方で、「特に決めていることはない」と答えた人の割合は26.3%となっている。

**(10) 地域の市町村指定の避難場所**

**「知っている」が87.3%**

地域の市町村指定の避難場所について、「知っている」と答えた人が87.3%となっている。

一方で、「知らない」と答えた人が11.9%となっている。

**(11) 自主防災活動への参加**

**“参加したことがない”が64.2%**

自主防災活動への参加について、「いつも参加している」(6.3%)と「時々参加したことがある」(27.8%)を合わせた“参加したことがある”と答えた人の割合が34.1%となっている。

一方で、「自主防災活動が行われていることは知っているが、参加したことはない」(26.6%)と「自主防災組織があるかわからない(ない)ので、参加したことはない」(37.6%)を合わせた“参加したことがない”と答えた人の割合は64.2%となっている。

## **5 河川情報について**

**(1) 洪水ハザードマップの認知度**

**「自宅にあり、見ることができる」が30.7%**

洪水ハザードマップの認知度について、「自宅にあり、見ることができる」と答えた人の割合が30.7%と最も高く、続いて「洪水ハザードマップを知らない」(21.4%)、「洪水ハザードマップを知っているが、持っていない」(18.7%)の順となっている。

## (2) 自宅周辺の災害リスクの認知度

### 「豪雨による被害」が52.0%

自宅周辺の災害リスクの認知度について、「豪雨による被害」と答えた人の割合が52.0%と最も高く、続いて「津波による被害」(10.6%)、「土砂災害」(7.2%)の順となっている。

一方で、「特になし」と答えた人の割合は、27.7%となっている。

## (3) 豪雨時の気象情報や河川情報の入手方法

### 「テレビ・ケーブルテレビ(データ放送含む)」が85.8%

豪雨時の気象情報や河川情報の入手方法について、「テレビ・ケーブルテレビ(データ放送含む)」と答えた人の割合が85.8%と最も高く、続いて「インターネット」(53.1%)、「ラジオ」(29.3%)の順となっている。

## (4) 川に関するリアルタイム情報の利用状況

### 「地上デジタル放送のデータ放送による川の水位情報」が15.0%

川に関するリアルタイム情報の利用状況について、「地上デジタル放送のデータ放送による川の水位情報」と答えた人の割合が15.0%と最も高く、続いて「各市町村のホームページにおける川の防災情報」(8.3%)、「国土交通省ホームページ「川の防災情報」」(7.3%)の順となっている。

一方で、「いずれも利用したことがない」と答えた人の割合は、69.9%となっている。

## (5) 水災害時の避難のタイミング

### 「避難指示・避難勧告等が発令・発表されたとき」が43.9%

水災害時の避難のタイミングについて、「避難指示・避難勧告等が発令・発表されたとき」と答えた人の割合が43.9%と最も高く、続いて「自分・家族の判断」(20.8%)、「近隣の方や知り合いからの声掛け」(3.4%)の順となっている。

一方で、「避難しない(自宅がマンションなど高層階であるため)」と答えた人の割合は、10.2%となっている。

## (6) 行政の取組に対する期待

### 「水災害の危険性のある場所の紹介」が22.2%

行政の取組に対する期待について、「水災害の危険性のある場所の紹介」と答えた人の割合が22.2%と最も高く、続いて「緊急時の適切な避難方法の紹介」(21.8%)、「避難場所がどこにあるかについての情報発信」(16.9%)の順となっている。

## (7) 「みずから守るプログラム」の認知度

### 「知らない」が88.4%

「みずから守るプログラム」の認知度について、「知っており、参加したことがある」(1.2%)と「知っているが、参加したことはない」(8.8%)を合わせた“知っている”と答えた人の割合が10.0%となっている。

一方で、「知らない」と答えた人の割合は88.4%となっている。

## 6 これからの環境政策の方向性について

### (1) 現在、関心のある環境問題

**「廃棄物問題（不法投棄、海洋プラスチックごみ、食品ロスなど）」が72.4%**

現在、関心のある環境問題について、「廃棄物問題（不法投棄、海洋プラスチックごみ、食品ロスなど）」と答えた人の割合が72.4%と最も高く、続いて「地球温暖化」（68.9%）、「海や川の汚れ」（36.9%）の順となっている。

### (2) 環境問題に関心を持つようになったきっかけ

**「新聞、雑誌、テレビ、ラジオからの情報」が81.6%**

環境問題に関心を持つようになったきっかけについて、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオからの情報」と答えた人の割合が81.6%と最も高く、続いて「インターネットからの情報」（24.3%）、「広報誌、パンフレットからの情報」（12.4%）の順となっている。

### (3) 日常生活で行っている環境にやさしい行動

**「ごみを分別する」が77.6%**

日常生活で行っている環境にやさしい行動について、「ごみを分別する」と答えた人の割合が77.6%と最も高く、続いて「買い物袋（マイバッグ）を持参したり、過剰包装を断る」（67.7%）、「食べ残しや作りすぎをしないなど、生ごみを減らす」（44.9%）の順となっている。

### (4) 「SDGs」の認知度

**「聞いたことがない」が73.4%**

「SDGs（持続可能な開発目標）」の認知度について、「聞いたことがあり、内容もよく知っている」（2.5%）と「聞いたことがあり、内容もある程度知っている」（5.2%）と「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（17.3%）を合わせた“聞いたことがある”と答えた人の割合が25.0%となっている。

一方で、「聞いたことがない」と答えた人の割合は73.4%となっている。

### (5) 将来の世代に良好な環境を引き継ぐために県が最も取り組むべき課題

**「廃棄物の減量化やリサイクルの推進」が32.6%**

将来の世代に良好な環境を引き継ぐために県が最も取り組むべき課題について、「廃棄物の減量化やリサイクルの推進」と答えた人の割合が32.6%と最も高く、続いて「地球温暖化対策・低炭素社会づくり」（19.5%）、「自然環境や生物多様性の保全」（7.0%）の順になっている。

### (6) 環境問題を解決するために県に求めること

**「環境保全に関する技術開発の支援」が36.9%**

環境問題を解決するために県に求めることについて、「環境保全に関する技術開発の支援」と答えた人の割合が36.9%と最も高く、続いて「環境に関する情報の提供・意識啓発（展示会・講演会・セミナーなどの開催）」（35.9%）、「条例や規則による規制の強化」（29.1%）の順となっている。